

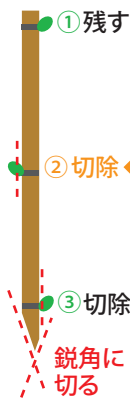
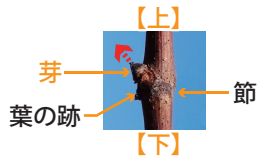
挿し木の流れ【発根まで編】

① 挿し穂をつくる

家についたら枝を切りそろえ、挿し穂をつくりましょう。

ポイント!!

枝には“上下”があります。芽が向いている方が“上”(枝の先)です。挿し穂が上下逆にならないよう、ご注意ください。



ポイント!!

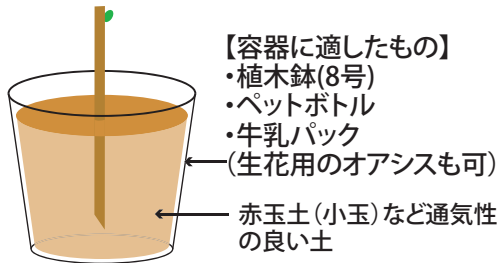
基本的には②の芽も切除しますが、もし①の芽の充実が悪い場合は、①からはうまく発芽しない可能性があります。その場合は、②の芽を生かしておき、発芽後に成長の悪い方を除きましょう。



挿し穂の完成

② 挿し木をする

挿し穂づくりと同時に、挿木床を準備します。土は通気性が良い赤玉土などがオススメです。ペットボトルや牛乳パック、生け花用のオアシスで発根させてから鉢に植え付ける方法や、直接鉢に植え付ける方法があります。また、鉢は8号サイズが適しています。植えつけたあとは、たっぷり水をあげましょう。



ポイント!!

- 挿し穂を挿す時に、切先が傷まないよう、棒で穴を開けてから挿します。
- たっぷり水を与えます。

③ 発根までの成長過程

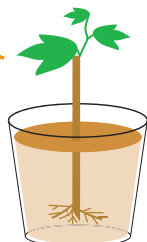
挿し穂がうまく成長するまでには、先に葉が出る「1次成長」と、葉の成長が一時停滞し、発根と同時に地上部も大きくなり始める「2次成長」という過程を経ます。「1次成長」の時は、まだ根が出ておらず、油断ができない時期ですので、よく観察して乾燥などに注意しましょう。

ポイント!!

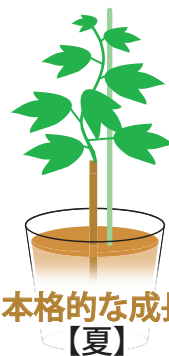
一度止まった葉が、再び大きくなり始めたら、発根と成長が始まった合図です



— 1次成長 —
【5月ごろ】



— 2次成長 —
【6月ごろ】



本格的な成長
【夏】

ポイント!!

ブドウには“水はけの良い土”が適しています

挿し木の流れ【発根後編】

④ 挿し木がうまくいったら

挿し木が成功すれば、ブドウは夏にぐんぐん成長します。その後の育て方について、鉢での仕立て方(あんどん仕立て)とともに簡単に解説をします。

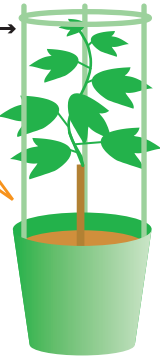
1年目【夏】

ポイント!!

勢いよく成長する時期なので、元気が無いようなら肥料をあけて下さい。やり過ぎには注意です!!

あんどん支柱を設置し、枝の成長に伴い、誘引していきます。また、勢いの弱い方の分岐枝を落とし、長い1本の枝を目指して仕立てましょう。

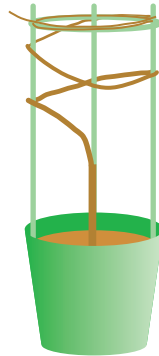
あんどん支柱 →



2年目【早春】

1年目で成長した枝が、らせん状に巻きついているのが理想的な形です。

健康な芽を残し、余分な枝先を切るなど調整を行い、夏の成長に備えます。

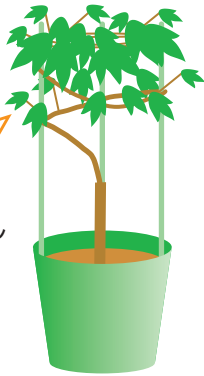


2年目【夏】

ポイント!!

ブドウの実をつくるには、たくさんの栄養が必要です。この段階は、健康な株づくりが最優先です。

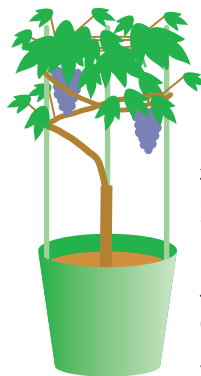
分岐した枝から葉がたくさん展開します。まだ株が未成熟のため、恐らく結実はしません。もし花が咲いても摘み取り、株の成長に専念させましょう。



3年目

順調に成長していれば、3年目にブドウが実る可能性があります。

まだ株に力が無いため、あえて花を摘み取り、4年目以降の充実を目指すことも考えられます。



ポイント!!

株が大きくなったと感じたら、鉢が根でいっぱいになる前に、冬期に大きめの鉢に植え替えましょう。

また、ブドウは様々な病害虫によって成長や結実を阻害されます。

対処方法については多岐に渡るため、ここでは解説できませんが、ブドウの家庭栽培の解説本が多数販売されているため、手元にあるととても便利です。

ぶどうの成長記録 「ぶログ」も随時更新中!



詳しくはこちら

ぶどうの成長記録 [検索](#)